令和５年度　淡路市地域と学校の連携・協働体制推進事業　目標等の設定と評価

課題の類型		課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価･分析（事業における成果、課題、改善点等）
学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	子どもたちを取り巻く社会環境の変化に伴い、他学年や地域の人々との交流が希薄化している。 また、ゲーム機など娯楽の多様化、先鋭化により、子どもたちが伝統芸能や集団活動に親しむ機会が乏しくなっている。	①市内で開設される放課後子ども教室全7教室に参加する児童数延べ3,300人を目標とする。 ②市内で開設される放課後子ども教室全7教室に参加する教育活動サポーター延べ700人を目標とする。 ③茶道や陶芸など、伝統芸能に係る体験教室を年間30日以上実施する。	①他学年交流、世代間交流を活発にし、子どもたちが多くの人々の影響をうけながら、生きる力を養う。 ②伝統芸能を体験することで、ふるさとを愛する心を醸成する。	各教室の活動報告における集計等	75	%	90	91	参加児童からの満足度も高く、放課後の子どもの居場所づくりとして一定の役割を果たせている。また、地域のボランティアにとっては、世代間交流の場として機能している。茶道や陶芸など、通常の学校教育では取り組みが困難な伝統文化体験教室を随時実施することで、わが国の文化に親しむ機会を創出している。「学校の働き方改革」の観点では、児童が放課後子ども教室に参加していることで、教員による放課後の児童対応の負担を軽減していると考えられる。 一方で、教室内容がやや画一化しているため、子どもたちのニーズに応じた魅力ある内容を計画する必要がある。また、学校や地域だけでなく、家庭との連携も一層強めていきたい。
学校と地域の課題	その他	地域住民の高齢化や、地域の少子化により、地域学校協働活動（地域学校協働本部推進事業）の規模が比較的小さい学校区がある。	地域学校協働本部推進事業コーディネーターの活動日数を年間360時間を目標とする。	市内各小中学校における地域学校協働活動の活発化。	コーディネーター出勤簿、活動報告等	95	%	100	85	「学校応援団バンク」は各学校で活用されており、特にトライやるウィーク参加事業所の選定を行う際には有効であって、市内外からも注目されている。また、各学校では、学校区の特徴を生かした魅力的な取り組みが行われており、コーディネーターがその調整を担うことで、学校･地域･行政間で連携することができており、地域づくり活動の側面がある。「学校の働き方改革」の観点では、体験型授業の一部を地域人材が主導的に行うことで、先生方の授業準備の負担を軽減しているほか、登下校対応、行事準備運営なども行われており、地域一丸となった学校支援を行っている。 課題は、現在、地域学校協働本部推進事業コーディネーターを1名設置しているが、学校からは、各学校に1名ずつ、コーディネーターの役割を担う人材の設置を求められている。予算面や、人材の発掘の点で課題がある。また、地域学校協働本部推進事業自体の知名度が低く、学校関係者以外の地域住民にあまり知られていない。学校を通じ、積極的に周知をはかっていくよう、工夫していく。